

現存する“奉安殿”の不思議
(西条市)

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
近代化遺産活用アドバイザー

西条市にて、これらに驚かされたのは、あれは確か愛媛県の近代化遺産調査の頃だから、もう10年以上前の平成23年頃だったか。こんなのが残っていたとは！当時の率直な感想だった。そのこれらというのは、“奉安殿”の事。
と、字面を見ても、果たしてこれが何の事か分かる読者がさて何割いるのだろうか。戦後79年、来年で80年が経過する。当時をリアルに知る世代は既に激減、その戦時中の出来事に話は遡る。奉安殿、まさにこれこそが戦前期教育の象徴と言っていい建物。その由緒については、まず武家政権が倒され近代明治がスタートして直後の明治5年、皇国史観に基づく皇紀(神武天皇即位からの起算)が採

用される。その皇紀2550年に当たる同23年に教育勅語が制定され、全国の学校に奉安庫とか奉安所として校舎内に整備されるようになってゆく。

その勅語は、言うまでもなく旧大日本帝国下における修身・道徳教育の規範であり、新年、紀元節(2/11)、天長節(4/29)、明治節(11/3)などの儀式には必ず用いられた。同43年頃から御真影(天皇の写真)の下賜も始まり、軍国主義の高まりもあって昭和10年頃からは、耐火耐震構造の別棟奉安殿が各学校に盛んに出現するようになる。そうした皇民化教育の頂点が同15年(皇紀二千六百年)、全国各地では華々しく祭典が催された。当時の校長の最大責務は勅語と御真影の守護であり、奉安殿の前を通る際に子供は敬礼が義務付けられ、それを怠るとピンタを張られたという体験の古老の話も。

やがて同20年に敗戦となり、連合国軍(GHQ)が進駐し、ダグラス・マッカーサーによる戦後統治が始まる。当然軍備解体はおろか、こうした精神教育の支柱であった奉安殿に対しては、全国で破却命令が実施される。という訳だから、西条における当初の私の驚きは、あ

るハズの無いものが眼前に存在するという、ナマ奉安殿の発見?にビックリした次第なのだった。

調べると、内子町大瀬にも1基あり、西条市内に4基。ところが、最近になってまだ他にもある、と。新たに4例の報告が上がる。やはりと言うべきか西条市内にもう3基、加えて今治市からも1基。なんてこった。

それらを一つ一つ、紙幅の許される範囲簡単にご紹介したい。ちなみに何れももちろんのこると現地ではなく、移設保存である。まず西条市から、①千町国民学校(せんぢょう)の奉安殿が近くの近江神社の



①旧千町国民学校



②旧禎瑞国民学校

本殿として鎮座されている。次に②禎瑞国民学校のものが堤防上に蛭子神社として。③大町国民学校のものが禎瑞の補陀洛の寺墓地に、こちらはナント嘉母神社の神官石川家墓所に变化している。次いで石鍾神社境内に天皇宮として合祀されている。



⑥旧水見国民学校の奉安殿



⑤旧神戸国民学校



④旧橋国民学校



③旧大町国民学校

るのが、近くの④旧橋国民学校のものである。何れも石造（花崗岩製）でほぼ同タイプ。最近の報告例としては、⑤旧神戸国民学校のものが現在の神戸小の北側300mほどの位置にある敷之内神社、これも石造の同タイプ。⑥旧水見国民学校のものが石岡神社境内に移設されているが、これのみは木造の神社型式。そして、愛媛新聞報道があつて知り得たのが⑦旧三芳国民学校の奉安庫。こちらは個人が所蔵されて



⑧今治実践商業学校



⑦旧三芳国民学校

いたもので、かつては屋内（講堂か？）で使用されたタイプ、現在は西条市に寄贈されている。そうした中、驚きの連絡が今治市教委の山本達也氏よりもたらされる。早速現地。するとそれは今治駅前のお宅にあり、その建物下部の銘から⑧今治実践商業学校とある。私立の学校を経営されていた方のご子孫宅に。県内の現存例では初の洋風建築。当時の社会情勢もあつてか、どの奉安殿についてもほぼ記録らしいものがまだ見つからない。GHQの指示に逆らう行為が堂々と出来るはずもなく、なので密かに事は運ばれたであろうと想像されるが、大瀬国民学校（内子町）のそれ（木造）も、大瀬中学校の近くの山陰にひっそりと星中神社として祀られており、すっかり忘れられた存在らしい立地である。何れにしても、西条市の場合はいまだけ多くの奉安殿が遺された経緯について、記録が無いとは言え、神官石川梅蔵氏の関与があつたに違いないと筆者はみている。戦後の語り部不在となる中、貴重な証言が得られる一縷の望みを願っている。

※④～⑥は「水見古民家研究会」よりご教示頂く。